

こまがね市民活動支援センター

ぱとなだより

Patona

第5号
2010.11



駒ヶ根市中央16番7号
Komagane-shi, chuo, 16-7

TEL: 82-1150 FAX: 82-1151
Mail: kmcenter@cek.ne.jp

「ぱとな」開設一周年式典と初の「ぱとなまつり」盛大に!!

市民活動を支援し活性化を図ることを目的に〇九年十月十日に市内中央に開設したこまがね市民活動支援センター（愛称ぱとな）は開設一周年を迎え、十月十日同センターを中心に一周年記念式典と初の「ぱとなまつり」がにぎやかに行われました。

一周年記念式典には、杉本市長ご臨席のもと来賓に上伊那地方事務所市川武二所長、佐々木祥二県議をはじめ、市議会、関係機関の代表者を迎え、登録会員など約三〇人が参列しました。

鈴木明所長は「初年度は手探りで運営でしたが、少しずつあるべき姿が見えてきました。今日を契機に更なる充実に努めます」と感慨を込めてあいさつをしました。

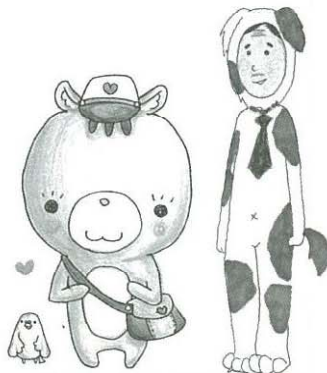
引き続き、同センター登録団体連絡会を代表して須田秀枝会長が「こまちゃんイマジニア宣言」を行い、公式マスコットキャラクターの発表に移りました。応募は、市内の中学生を中心に一三四件も



挨拶する鈴木所長



鶴田さゆりさんとお母さん(佳作)



「パトナ」と「ぱと田さん」

ありました。この中から、最優秀賞の鶴田さゆりさん（赤穂）をはじめ、優秀賞一人、佳作四人、特別賞七人に賞状と副賞が授与され、応募作品の中から鈴木晴花さん（東伊那）の「ぱと田さん」を新規採用職員として任命し、ユニークな試みが会場を和ませました。

親子で スタンプラリーを楽しむ



1等のテレビが当たって大喜び

初の「ぱとなまつり」は、勇壮な北割獅子舞保存会の「祝獅子舞」と縁舞蓮の「よさこいソーラン」で開祭、体験や飲み物、食べ物の販売など登録団体の工夫を凝らしたテントブースが並びました。商連こまがねと共催したスタンプラリーは、豪華特賞に大勢の市民が参加しました。

同センターで行われました登録団体の活動発表会には十団体が活動の成果や日ごろの活動の様子を映像や実演で生き生きと発表し、多くの人々が熱心に聞き入りました。

こまがね市民活動支援センター事業実績

- 一、受託事業
- (1) 支援センター運営管理
 - (2) 環境エコポイント推進事業
 - (3) 子育て情報支援事業

二、市民活動団体支援事業

- (1) 利用者団体連絡会（事務局）
- (2) 登録団体情報交換紙「Pフレンド」発行
- (3) 市民活動支援セミナー開催
- (4) 市民活動相談業務

三、研修支援事業

- (1) 地域づくりセミナー開催

四、市民団体支援事業

- (1) 長野県看護大学 交流市民の会支援
- (2) 駒ヶ根元気まちづくりプロジェクト事務局

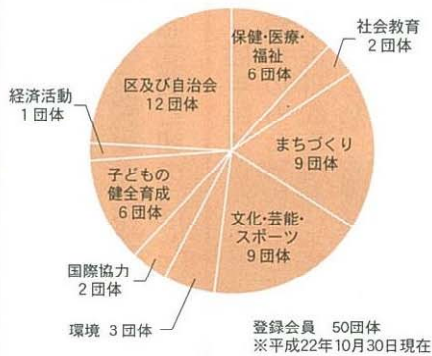
五、団体・組織の事業支援

- (1) 「ぱとなまつり」の開催

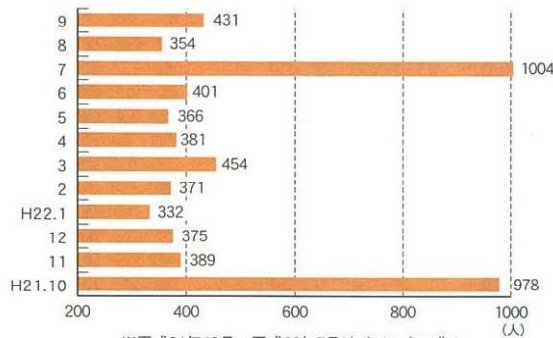
この他、こまがね市民活動支援協会では次の事業も受託しています

- 緊急雇用対策支援事業
駒ヶ根市街なか創業支援事業
街なか創業塾
「まちなかスクエア」開店

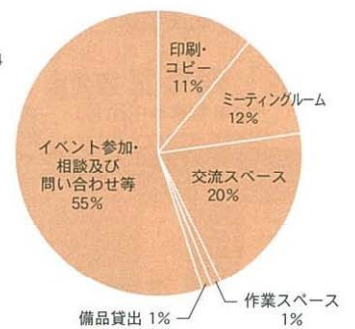
*赤表示は新規事業です。



登録会員分野別グラフ



月別利用者グラフ



利用者目的別グラフ

こまちゃん イマジニア宣言

夢と希望に溢れる市民活動・地域活動を市民全体で応援します！



宣言する須田秀枝さん

わたしたちは、夢と希望に溢れ、愛と誇りと活力に満ちた駒ヶ根市を築いていくため、夢を形にすること「こまちゃんイマジニア」を合言葉に、熱い想いでまちづくりに取り組んでいきます。

- 一、わたしたちは 駒ヶ根市の未来のために 夢と希望を持って活動します
- 一、わたしたちは 想い描いた夢と希望を 形にしていくために活動します
- 一、わたしたち一人ひとりがまちづくりの主役となって 熱い想いを持った活動を 皆でたたえ合い 応援し合い 新たな駒ヶ根市を築いていきます

平成22年10月10日宣言

こまちゃんエコポイント

ぱとなでは、今年度から「こまちゃんエコポイント事業」を受託しています。

こまちゃんエコポイントをもらうには...

- ① 交付対象のエコ活動に参加 ↓
- ② 補助チケットを受け取る ↓
- ③ 入力店舗でつれてってカードに入力する ↓
- ④ つれてってカード 加盟店で買い物をする。

こまちゃんエコポイント交付事業の主催者を募集中！

ぱとなでは、多くの市民の皆さんにエコ活動に参加していただくために、エコポイント交付事業を主催していただく企業・団体等を募集しています。

現在、こまちゃんエコポイントの交付にご協力いただけるよう企業への説明を行っております。

今年度の団体実施事例

- アレチウリ駆除：150ポイント (NPO法人天竜川ゆめ会議 主催)
- 水生生物調査：100ポイント (ねずみ川愛護会 主催)
- 資源物回収イベントへの参加：1キロにつき10ポイント (駒ヶ根商工会議所青年部 主催)

区 ⑥

「上穂町区」

文化施設と公園が整備され
暮らしやすい



盆踊りで盛り上がった夏祭り

上穂町区は天竜川上流河川事務所から県看護大学まで南北に長い区で、県看護大学や市文化センターなど文化、教育施設が集中しています。
区民憩いの三和森には三和社の三社があります。「祇園祭や恵比須講もにぎやかですが、盆の十五日は区民の夏祭りが開かれ、屋台や盆踊りに多くの区民が参加しました。上穂町区年番で挙行した五十鈴神社の例大祭は、雨模様でしたが、無事奉納ができました。区のテーマは絆。

人が集まれば幸せも集まる。支え愛“を具現化するよい舞台でした”と長谷部清人区長。

区と看護大学住民協議会では「看大生が一人でも地域に就職してほしい」と願い、学生と協力して花壇づくり、同校文化祭「鈴風祭」への出店、区民運動会、ソフトボール大会など区のスポーツ行事にも看大生に参加していただいています。

福祉施設「ぎらら」には中間教室、自立支援施設、児童福祉施設があります。「草刈りや庭木の剪定、雪かきなどに、地域の皆さんが自発的にお手伝いをしています。障がいがあっても一生懸命生きる姿に、共感し元気をもらっています」。

木々が紅葉し、四季桜が白い花をつけるずらん公園は、夏は忘れな草が青い花を無数につけ、園内の小川には梅花藻が涼しさを演出しています。

看護大学南には四季折々の花が咲く看大ふれあい花壇と公園があり、樺並木とともに憩いの場となっています。

今後は放置ゴミ対策、上穂大通りの樺の樹種転換、さらに高齢者世帯への“支え愛“を具現化していきたいと思っています。

区 長・長谷部清人さん
副区長・諏訪德行さん
会 計・増田泰宏さん

区 ⑦

「北割一区」

中央道開通で農業地域が商業、
観光地に変貌

長寿荘から太田切川まで南北一・五^キ、文化センター西から駒ヶ根高原まで約四^キと東西に長い区です。

中央道開通により、アクセス沿線に大型郊外店が相次いで出店し、かつての農業地帯は商業集積地に大きく変貌しました。駒ヶ根高原も駒ヶ岳ロープウェイや早太郎温泉で観光地として、県内外から多くの観光客を迎えています。

区内には昭和伊南総合病院があり、竹内昭夫区長は「病院は区民の安心安全、心の支えとなっており。何かお役に立て



みんなで水仙の球根の植え付け

ないかという声があり、病院と相談し、駐車場東側の緑地帯に水仙の里づくりを計画。今年も地区社協、病院関係者と協働で総延長三百^{メートル}に千五百球を植栽しました。継続して植え続けますので、数年で緑地帯は水仙の花で埋まるでしょう。

また、こまくさの湯東に産婦人科医院「レディースクリニック」も開院しました。伊南地区の妊婦さんには心強い味方です。

七名石で有名になった切石公園には北割一、二区、上穂町区と共同で昭和五年建立の「山の神」社殿の屋根を修復し案内板も設置、三地区の安寧を祈願しています。

区の防災本部にもなる老人福祉センター「長寿荘」は昭和五十二年の建設で老朽が進み、耐震化とイス対応に向けた大広間の改修が課題です。

また、マンションやアパートが急増し、自治組合加入率が五割以下になってしまったのも悩みの種です。

また、企業や大型店が出店し、法人区費が集まり、区の健全財政維持に寄与しています。一方では通勤車両が幅員の狭い生活道まで侵入し、交通安全上の課題となっています。

区 長・竹内昭夫さん
副区長・池上晶登さん

こまがね情報発信地

まちなかスクエア

1

広小路商店街にオープン
活性化に向け始動



七月、長野県の『ふるさと雇用再生特別基金』を活用した駒ヶ根市の街なか創業支援事業による『街なか創業実践塾』が開講、九月には「まちなかスクエア」のネーミングで広小路にオープンしました。駒ヶ根市、駒ヶ根商工会議所、市内商店街、観光協会などのバックアップと協力を基に、こまがね市民活動支援協会が事業を受託し、現在二名の職員が、店舗営業と駒ヶ根の活性化に挑戦しております。店内には、名産品や工芸品、市民や障害者の皆さんの手作り品などを展示。レイアウトを工夫するなど、お客様目線に立ったお作りを心がけ一部商品の販売も行っております。店内は休憩所としても利用でき、中央アルプスの水を使用したコーヒーと緑茶もサービスしております。カウンター横のスタンドには、各種観光パンフレットを豊富にそ

ろえており、県観光課の『信州デザインネイションキャンペーン』“さわやかにもてなそう県民運動”にも登録。より親身な観光案内のために、駒ヶ根駅から千畳敷まで公共機関を使用して、観光客と同じ目線で視察を行いました。

また、市街地活性化事業として、各種イベントの企画、商店街や各商店のお手伝いなども実施。ばとなまつりや国際広場への協力、商店街のイベント取材・冊子作成などのほか、キャンドルや行灯が街を彩る『灯りフェスタ』（十二月開催）の企画にも携わっております。店舗を広く知っていただくために、ポスターやちらし、公式ホームページも作成。店舗紹介や地図案内、店舗や中心商店街の各種イベント情報などを掲載しております。

今後は新たな情報発信ページも企画し、市民の皆さんとともに駒ヶ根を盛り上げていきたいと考えております。街歩きの際には、気軽に『まちなかスクエア』にお立ち寄りください。



職員の今井ちおりさん(左)
御子柴史江さん(右)

店舗・市内中央一七二二三
営業・午前十時～午後六時
電話・八二一―一七二
定休日・日曜日 月曜日

連載

「ばとな」への想い⑤

こまがね市民活動支援協会
会長 鈴木明

議論の成果をかたちに...

市民活動支援センター設立準備会が発足して七ヶ月後の平成二十一年一月二十三日に「企画書」を市長宛に提出できました。引き続き準備会は、受託母体の選定のための研究を続けました。

そして六月には協会を設立し、運営を引き受けることになりました。足掛け四年に渡る研究を続けてきたことから、センターの運営は創立の理念の分かっている者達が責任上からも受け持つべきだということでもとまりました。そこで設立準備会は全員一致で「こまがね市民活動支援協会」の設立を決め準備会メンバーを中心に会員登録をしました。センター事業は協会が受託し、センター長(非常勤)と、事務局長(常勤)を協会から出向させ、職員は一般から公募することにしました。

又、センターの運営の業務監査を第三者に託すように『運営評議会』を設置し、客観的な評価をお願いする事にしました。

これらの組織をもって平成二十一年十月十日に開所して、本年十月に一周年を迎えることができました。 (一部 完)

運営評議会(活動評価) (敬称略)

会長 小出 勇

副会長 氣賀澤徳義、高谷正憲

委員 北原 勉、代田和美、

桐生 肇、浦野利彰、

酒井幸夫、下島孝夫、

湯澤英喜

編集後記

「柿が赤くなれば、医者が青くなる」と昔から言われます。このことわざは、特に柿だけでなく、秋の季節は、みかんやゆずなども実をつけて色づき、食べ物が豊富で病人が少なくなるということのようです。多分、昔は、冷蔵庫などが無かった為、夏の間の暑い時期は、食べ物が腐りやすく、食中毒なども多かったのでしょうか。昔から庭先に生えたどくだみの葉がすぐ葉になつたり、小麦粉に酢を混ぜたものがシツプ薬になったり、先人の知恵は生活の中から考え出された貴重な医療事典であったことに感心します。食生活が豊かになり、日本も長寿の国となりました。その一方で、生活習慣病や新型コロナウイルスによる感染症等が発症しています。子どもや若い人の好む食事がそのままお年寄りに好まれるとは限りません。「医食同源」の言葉と「食」を考える余裕も欲しいですね。

ばとなは、一周年を迎えましたので第五号は特集号としました。イメージキャラクターの「ばと田」くんとして新規採用職員の「ばと田」氏も新しく仲間入りしました。市民の皆さんの身近なセンターとなるように職員一同、ますます頑張ります。

【事務局長 宮澤】

発行日二〇二〇年平成二十二年一月
発行者
こまがね市民活動支援センター